# 新潟市アグリパーク 日本初の公立 教育ファーム―訪問記

編集部

## はじめに

6月下旬、アグリパークを訪問した。それは、新潟市南区東笠巻新田（国道8号線沿い上塩俵）、信濃川と中ノ口川が合流する新潟平野の真ん中にあった。3年前に約19億円の整備費（用地取得費は除く）をかけて建設された。7・7ヘクタールの用地に、圃場や多くの建物が整備され、真新しくピカピカだった。

ある小学校4年生十数人が、泊りがけ授業の終わりの会をしていた。教育ファーム園長、真柄正幸さんが、命と愛を主題にまとめの話をされ、児童代表が園へ感謝と2日間の体験を活かす決意を述べて終わった。

その後は真柄さんが私たちに、アグリパーク全般を説明された。その上で他の小学4年生が搾乳活動などしている様子を見て、トマト栽培ハウス、ピザ焼き釜、食堂などを案内してもらった。以下、真柄さんの話や資料をもとにまとめた。

## 1　アグリパークの概要

新潟市アグリパーク条例では、「市民が農業に触れ、及び親しむ場並びに農業を学ぶ場を提供することにより、地域の農業に対する理解を深め、もって郷土愛を育むことを目的として、並びに市内の生産者等に対する食品の加工等に関する技術的支援を行うことにより、農業の振興に資することを目的として設置する」と記されています。

12年前に基本構想が策定され、その3年後に用地取得をなし、2年間の建設工事を経て、ちょうど3年前からオープンしました。

主要な施設は、クラブハウス、体験ハウス、体験畜舎、農機具庫、宿泊棟・コテージ、農産物直売所、レストラン、食品加工支援センターと体験圃場です。

運営主体は、にいがた未来共同事業体で、構成団体は学校法人国際総合学園、愛宕商事株式会社など四つ

の会社です。

スタッフ体制は、統括館長のもと、教育ファーム部門（副館長）、総務・就農部門（副館長）、六次産業化支援部門(副館長)の下に常勤者は23名です。

設置目的を実現するために、「教育ファーム」「六次産業化支援」「就農支援」の三つの事業が展開されています。

## 2　教育ファームの特徴

こどもたちが多様な体験をとおして学ぶことにより、ふるさとへの愛情や誇り、生きる力を養うために設置した全国初の公立「教育ファーム」です。

その性格・特徴は、次のとおり。こどもたちが、①本格的な農業体験ができる、②持続可能な循環型の農業を学べる、③生きる力を養うため、体験と知識を結び付けた学習ができる、④農業体験、加工体験、食体験を関連付けた学習ができる、⑤郷土への誇りと愛情、命の大切さを学べる、⑥農業体験をとおしてキャリア意識を高められる、⑦農家のサポートを受けながら仲間と協力して絆を深められる。

その活動の特徴を3つに要約すると、（1）農業に触れ、親しみ、農業を体験的に学ぶことができる。（2）文部科学省が定める学習指導要領に基づき、学校のカリキュラムと連動した農業体験学習を行うことができる。（3）宿泊施設があり、子どもから大人までがじっくりと農業体験学習を行うことができる。

## 3　教育ファームの具体的な活動

新潟市では、先述の目的を達成するために、「アグリ・スタディ・プログラム」を策定しています（以下、ＡＳＰ）。それは、小学校編、中学校・中等教育学校編、特別支援学校編、幼稚園編、適応指導教室編で構成され、70の主要プログラムが作られ、そのうち45がアグリパークにおける農業体験学習になっています。

その農業体験学習は、次のように具体化されています。

**〔耕起・畝づくり・苗植え・収穫体験〕**

体験圃場で、土や水について学び、実際にくわを使って土を起こしたり、畝を作ったりすることができる。また、作った畝に苗を植える体験もできる。さらにおいしい野菜の見分け方を学び、自分で収穫する体験もできる。

**〔収穫した野菜での食味・加工体験〕**

収穫した野菜をそのまま食べる体験ができる。また、収穫した野菜を使ってピザ・カレー・サラダ・ジュース・豆腐などを作る体験ができる。さらに、郷土料理である笹団子や四十物（あえもの）団子作りも体験できる。

**〔搾乳・餌やり体験〕**

体験畜舎では、家畜への理解を深めてもらって、乳搾りの体験ができる。また、餌やりやブラッシング体験を通して、動物と触れ合うことができる。

**〔その他の体験〕**

ウインナーソーセージやバター作りの体験ができる。また、かまどで炊いたご飯のおにぎり作り体験ができる。

**〔隣接施設での体験〕**

ＡＳＰでは、近隣農家の協力を得て、果樹の収穫・食味体験や田植え・雑草取り・稲刈り体験を行っている。

以上は、園児・児童・生徒対象のみならず、一般向けの農業体験学習プログラムがあり、子どもから大人までが農業体験学習を行うことができる施設になっています。

## 4　アグリパークが目指していること

「来園者が、農業体験学習を通じて、新潟市を代表する農作物への理解を深め、ふるさとの素晴らしさを実感し、誇りを持てるような」施設運営をしていきたいと願っています。

また、「循環型農業」と「命の大切さ」を意識して取り組んでいきたいものです。具体的には、「収穫した野菜のくずを使って堆肥を作り、堆肥を混ぜた土に苗を植えて野菜を育て、収穫する。収穫した野菜のくずを使って再び堆肥を作る体験」や「牛ふんで堆肥を作り、堆肥と混ぜた土にトウモロコシを植えて育て、収穫したトウモロコシを牛の餌にする。牛ふんから再び堆肥を作る体験」などを通じて、動物と人間との関係や生命について関心を高めてほしいと願っています。

## 5　学年による体験学習の内容

各学校に、カリキュラムに基づいてＡＳＰから選択してもらいます。事前に必ず打ち合わせに来ていただきます。入念な計画を相談して、体験学習を実施します。小学校が、今のところ多く、２年生対象の「そう

だったの！ 土のひみつ」を例示します。学習指導要領上の位置付けは、【1・2年生活 ＊生活の内容(7)「動植物の飼育・栽培」】主な体験活動は、【よい土調べ、よい土クイズ（まとめ）堆肥場めぐり、牛のえさやり体験 土作り体験】（1人当たり料金30円・総時間13時間のうち3時間が体験学習）

このように、ＡＳＰは目標から活動内容、経費、時間まで細部にわたり、プログラミングしています。

例えば「昔の泥田に入ろう」は、3・4年生対象で、昔の農具調査と泥田体験をします。経費は要相談で15時間のうち4時間です。また、経費無料の活動もあります。

中学校全学年対象の特別活動 アグリパーク・ツアーズ～宿泊編2日目は、次の例示です。自分が育てる（植える・世話する・採取する・収穫する・見学調査する）→自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・見学調査する・作品にする）が、狙い（魂）で、よりよい集団になるため、ルールを守り、友達と協力する。①朝飯前の活動（農作業をみんなで）②野菜の収穫と調理③生ごみが奇跡を起こす（堆肥に）。経費は1人当たり1メニュー、無料～440円。＊宿泊料は2500円・税別・新潟市が補助するため実質は無料。

年度初めの学級づくり、学年づくりのための効果的な手立てとして農業体験学習を活用することもできます。

## 6 いろいろな課題とまとめ

学校の先生と園のインストラクターの協働による効果的な学習が行われていますが、教員が事前の打ち合わせやバスの手配などで、多忙をさらに強めること。効果は分かるが、遠方の学校や大規模校では学年行事にし難いこと。

農家や専門家の話や指導は、子どもたちに強い学習の刺激を与える。農家や果樹園に移動するのにもバスが必要で、経費がかさむ。市からの援助はあるが、保護者負担もあること。

発足して満3年、基本構想＝知識基盤社会、バーチャル世界、持続可能な社会、グローバル社会、自ら食環境を整えなければならない時代の「これから」を生き抜く子どもたちのために建てた施設は、必ず発展するに違いありません。

（文責・吉田武雄所員）